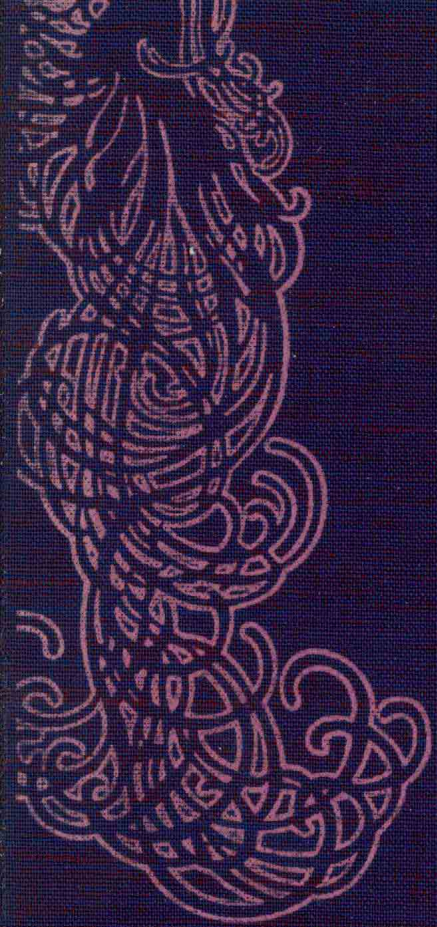

定本 與謝野晶子全集 第十卷

講談社

定本　與謝野晶子全集

第十卷　詩集二

昭和五十五年十二月十日　第一刷發行

定價　三千五百圓

著者　與謝野晶子

發行者　野間省一

發行所　株式會社　講談社
東京都文京區音羽二―二一―二一
郵便番號一二一　振替東京八―五六〇
電話東京(〇三)九四五―二二一(大代表)

組版　株式會社熊谷印刷

印刷所　多田印刷株式會社

製本所　大製株式會社

落丁本・亂丁本はお取替えいたします

©與謝野　光　一九八〇年

0392-261205-2253 (0) (文事) Printed in Japan

凡　例

一、詩集本文の詩は『晶子詩篇全集』を底本とした。（『晶子詩篇全集』には童謡も収められている。）

一、拾遺は初出誌・紙および初刊の単行本より収録した。

一、漢字・かな遣いの表記は、本文は底本に依拠したが、拾遺は初出誌・紙および初刊の単行本によった。ただし、ルビについては、編集部で削ったものもある。

一、本文中（拾遺を含む）の誤植と考えられるものは原則として正した。例外として、※印をつけ注記したものもある。

一、〔初出〕における表記の意味は次の通りである。

例　臙脂—早稲田文學　明44・11（雑誌「早稲田文學」の明治四十四年十一月号に臙脂の題名で収載。）

一、〔初出〕では初出誌・紙以外の出典を㊂で示したものもある。

一、〔單行本〕における表記の意味は次の通りである。

例　價値—若き友へ　大7・5（大正七年五月初刊の単行本『若き友へ』に價値の題名で収載。）

目次

幻想と風景（雜詩八十七章）

曙　光……五
大震後第一春の歌……七
元朝の富士……一一
伊豆の海岸にて……一四
田舍の春……一六
太陽出現……一七
春が來た……一九
二月の街……二〇
我前に梅の花……二三
紅　梅……二四
新　柳……二六
牛込見附外……二七

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

市中沙塵……二九
彌生の歌……三一
四月の太陽……三三
雜　草……三六
桃　の　花……三七
春の微風……三九
櫻　の　歌……四〇
緋　櫻……四三
春　雨……四三
薔薇の歌（八章）……四四
牡丹の歌……五八
初　夏……六一
夏の女王……六三
五月の歌……六六
五月禮讃……六七
南　風……七〇

五月の海……七三
チユウリツプ……七四
五月雨……七五
夏草……七六
たんぽぽの穂……七六
屋根の草……七八
五月雨と私……七八
隅田川……八〇
朝日の前……八二
虞美人草……八四
罌粟の花……八五
散歩……八七
夏日禮讃……八八
庭の草……九〇
暴風……九三
すいつちよ……九五

上總の勝浦……九六
木の間の泉……九八
草の葉……九九
蛇……一〇一
蜻蛉……一〇三
夏よ……一〇三
夏の力……一〇五
大荒磯崎にて……一〇六
女の友の手紙……一〇八
涼風……一〇九
地震後一年……一一〇
古簾……一一三
蟲干の日に……一一四
机に凭りて……一一七
蜂……一一八
わが庭……一二〇

夏の朝……一三三
蟬……一三四
新秋……一三七
初秋の歌……一三八
初秋の月……一三〇
優しい秋……一三二
コスモスの花……一三三
秋聲……一三四
秋……一三五
街に住みて……一三六
郊外……一三九
海峡の朝……一四二
秋の盛り……一四四
朝顔の花……一四五
晩秋……一四七
電燈……一四九

腐りゆく匂ひ……一五二
十一月……一五三
冬の木……一五五
落葉……一五八
冬の朝……一五九
腐果……一六〇
冬の一日……一六二
冬を憎む歌……一六四
白樺……一六七
雪の朝……一六八
雪の上の鴉……一七一

西土往來（歐洲旅行前及び旅中の詩廿九章）

別離……一七五
別後……一七七
ひとり寢……一八〇

東京にて……一八三
圖　案……一八六
旅に立つ……一八八
子　等に……一八九
巴里より葉書の上に……一九〇
エトワアルの廣場……一九一
薄　暮……一九六
ゼルサイユの逍遙……一九七
佛蘭西の海岸にて……二〇〇
フオンテンブロウの森……二〇四
巴里郊外……二〇六
ツウル市にて……二〇八
セエヌ川……二一一
芍　藥……二一二
ロダンの家の路……二一三
飛行機……二一六

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

モンマルトルの宿にて……二二七
暗殺酒鋪……二二八
驟雨……二二四
巴里の一夜……二二八
ミュンヘンの宿……二三二
伯林停車場……二三三
和蘭陀の秋……二三八
同じ時……二四一
羈愁……二四二
モンソオ公園の雀……二四四

冷たい夕飯（雑詩卅四章）

我手の花……二五三
一すぢ殘る赤い路……二五四
砂の塔……二五六
古巣より……二五七

人の言葉……二五九
闇に釣る船……二六〇
灰色の一路……二六三
厭な日……二六五
風の夜……二六七
小猫……二七二
記事一章……二七四
砂……二七七
怖ろしい兄弟……二七八
駄獣の群……二八一
或年の夏……二八五
三等局集配人（押韻）……二八六
壁……二八九
不思議の街……二九三
女は掠奪者……二九六
冷たい夕飯……三〇四

眞珠貝……三〇八
浪のうねり……三一一
夏の歌……三一二
五月の歌……三一四
ロダン夫人の賜へる花束……三一六
暑き日の午前……三一九
隱れ蓑……三二二
夜の机……三二三
きちがひ茄子……三二四
花子の歌四章（童謠）……三二五
手の上の花……三二一
一隅にて……三二三
午前三時の鐘……三二四
或日の寂しさ……三二六

拾遺（大正元年～昭和十七年）……三九

解題　編集部

解説　木俣修

装幀　アド・ファイブ

晶子詩篇全集　下

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com